

3年目を迎えた「シルクロード観光年」 定番素材の掘り下げや新たな資源の開発を

1980年4月にスタートした番組「NHK特集:シルクロード」(「絹の路」)は、視聴率が毎回20%前後という大ヒットとなり、1980年代の中国旅行ブームも引き起こしました。

日中国交回復が実現した1972年に企画された番組は、中国側との撮影交渉が難航を極め、改革開放路線に転じた後の1978年10月に来日した鄧小平副首相への直訴を通じて撮影許可が下りたという経緯は、国交回復

後における中日関係の発展も反映するものでした。

シリーズ第1集「遙かなり長安」の舞台となった西安は、日中国交回復45周年を迎えた今年、シルクロードの「起點都市」として改めて脚光を浴びています。中国国家観光局は、カザフスタン、キルギスと共同申請していたシルクロードの世界文化遺産登録が2014年に実現したのを受けて、2015年を「シルクロード観光年」と設定、今年も「昨

年と昨年に続いて展開することを決めました。

西安の街は、明の時代につくられた城壁で囲まれており、その巨大さと堅牢さに往時の繁栄がしのべれます。歴史を肌で感じられる城壁内の街歩きだけでなく、城壁の外側でも、世界文化遺産の構成資産である大雁塔、殷周時代の青銅器や唐代の壁画などが展示されている陝西省歴史博物館、郊外には楊貴妃ゆかりの場所として知られる風光明媚な華清池など、いにしへの中国との出会いも楽しめます。

2010年1月に開業した西安／鄭州間の新幹線を利用すれば、西安の兵馬俑、洛陽の龍門石窟や少林寺などを一日で回ること
も可能で、高速鉄道時代を迎えた中国観光の新しい魅力を体感することもできます。

シルクロード観光の知られざる魅力

東アジアと地中海世界を結ぶ交易路だったシルクロードは、商人だけにとどまらず、国の使節や武将、宗教家や芸術家なども往来し、仏教や美術、思想なども伝えながら、周辺地域の歴史や文化を育んできました。また、砂漠や山岳地帯などの地勢の厳しさは、苦難に満ちた道行を



1970年代に発見された兵馬俑坑には、陶俑陶馬8000点と青銅器4万点余があり、坑内に整然と並ぶ雄姿は見るものを圧倒します



西遊記の三蔵法師が持ち帰った經典を保存するため建立された大雁塔の北側にある広場からは、大雁塔を最も美しく望めます



「中国五岳」の一つである華山は、古くから道教の修行の場として知られ、西安から日帰りで急峻な山容を楽しめます



唐の高宗と則天武後の共同陵墓である乾陵には、数多くの石刻人形や石刻獸、華表(標柱)が並び、唐代の皇帝の權威が偲べれます

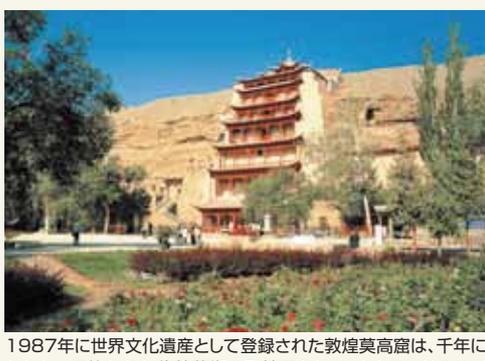


“七彩丹霞”とも呼ばれる「張掖彩丹丹霞」は近年、日本でもシルクロードの知られざる魅力をアピール存在となっています

旅人に強いる一方、シルクロードならではの大自然の美しさも演出してきています。

シルクロードの河西回廊に位置する甘粛省張掖の近郊に広がる「張掖丹霞地貌」は近年、日本人旅行者にも人気の高いエリアとなっています。総面積が510平方キロメートルにも及ぶカルスト状の地層が広がる大地は、中国で最も美しい「七大丹霞地貌」のついに数えられ

ているほどです。



1987年に世界文化遺産として登録された敦煌莫高窟は、千年にもわたって築かれた仏教芸術の聖地であり、シルクロードのハイライトです



広大な美しい砂丘として知られる敦煌鳴沙山の月牙泉景区には、かつてのシルクロードの旅を彷彿とさせる光景が広がります

白亜紀の赤みがかった砂岩や礫岩が隆起してできた地層が剥き出しの絶壁のような地形には、様々な鉱石が含まれているため、陽光の浴び方で色が変わり「七彩丹霞」とも呼ばれています。2008年に一般公開されるようになって以来、日本からは、その稀有な景観を



様々な料理や土産物などの露店や屋台が並び敦煌夜市の賑わいは、交通の要衝として東西交易を支えていた歴史を感じさせます

楽しむだけでなく、ハイキングやトレッキングのツアー素材としても活用が進んでおり、シルクロード観光の知られざる魅力をアピールする存在となっています。

中国西部の甘粛省にあつて、さらに、その西端に位置する敦煌は、古代から西域に対する最前線の軍事拠点として様々な民族が興亡を繰り返す一方、この地を行き交った人々もたらした多彩な文化の花が華麗に咲き誇りました。

砂漠の中にある小さなオアシスだった敦煌は、20世紀の初めに数多くの写本や仏画を収めていた藏経洞が発見され、列強各国の探検隊が写本や仏画を持ち去ったことで、皮肉にも莫高窟をはじめとする敦煌石窟が世界中に知れ渡ったのです。

「シルクロード観光年」が3年目を迎えた今年、定番の観光素材の掘り下げ



甘粛省・天水市東南の麦積山石窟には7200体の泥刻像や彫像、壁画などが保存され、「東方の塑像館」と呼ばれています



甘粛省の嘉峪関には、「万里の長城」西端の狼煙台が残されており、風雨に浸食された姿が“西域の最前線”を実感させます

や新たな観光資源の開発など、中国旅行の活性化に向けて、旅行業界の手腕も期待されるところです。